

宮ノ陣ビオトープ新聞

第 9 号

(2022年 3月)

宮ノ陣学びのビオトープ

2016年 9月創刊 不定期発行


発行

くるめハイトラスト株式会社
久留米市宮ノ陣町八丁島 2225 番地
〒839-0805 TEL0942-27-7515
協力 株式会社エコプラン研究所

宮ノ陣学びのビオトープから生き物や季節の情報をお伝えし、豊かな久留米市の将来へのライフスタイルを提案する新聞。

今回のビオトープ池の生物調査では、魚三種、カエル一種、底生動物十二種、外来生物二種の計十八種の生物が確認できました。
調査結果は、下表のように、新しい仲間が四種増えました。ゲンゴロウやガムシの仲間は様々な場所で減少傾向にある中、新たな種が加わったことや、絶滅危惧種に指定されるコガタノゲンゴロウが、昨年に続き百匹以上確認できたことは嬉しい結果となりました。全て捕獲できた訳ではないため、今回確認できなかったミズカマキリも生息している可能性はあると考えられています。
一方で代表的な魚類であるツチフキが減少していました。原因は様々な条件が重なって生じると考えられますが、外来生物であるオオカナダモによる影響が一つの原因と考えられます。詳しくは「みやのじんこどもビオトープ新聞」をご覧ください。また、昨年見つかった観賞魚ヒメダカが繁殖していないか心配していましたが、今回の調査では確認できませんでした。

表 池干しで確認した主な生物

分類	種名	数量				備考
		第四回 (2022.2)	第三回 (2021.1)	第二回 (2019.12)	第一回 (2018.12)	
魚	ツチフキ	34	94	約 30	約 40	2016年10月放流種、準絶滅危惧(福岡県)、絶滅危惧IB類(環境省)
	モツゴ	約 100	183	約 100	約 60	2016年10月放流種
	ミナミメダカ	約 100	210	500以上	500以上	2016年10月放流種、準絶滅危惧(福岡県)、絶滅危惧II類(環境省)
	ヒメダカ	-	2	-	-	品種改良による観賞魚
底生動物	ミナミヌマエビ	数えきれないくらい多数	数えきれないくらい多数	数えきれないくらい多数	1,000以上	
	ヤゴ(クロスジギンヤンマ)	3	-	約 10	-	
	ヤゴ(ギンヤンマ)	1	7	-	約 10	
	ヤゴ(オオヤマトンボ)	-	-	-	2	
	ヤゴ(シオカラトンボ)	15	10	-	約 20	
	ヤゴ(イトトンボ科) NEW	1	-	-	-	
	コガタノゲンゴロウ	100以上	110	約 50	約 50	絶滅危惧II類(福岡県)、絶滅危惧II類(環境省)
	ウスイロシマゲンゴロウ	2	10	5	5	準絶滅危惧(福岡県)
	ヒメゲンゴロウ NEW	1	-	-	-	 体長約 1cm
	ヒメミズカマキリ	-	-	2	約 10	
	ミズカマキリ	-	1	-	-	準絶滅危惧(福岡県)
	ヒメガムシ	4	10	約 10	約 20	
	キイロヒラタガムシ NEW	2	-	-	-	
	カワニナ	50以上	107	約 30	-	2017年2018年に放流(宮ノ陣の水路で捕獲)
シジミ属 NEW	1	-	-	-		
カエル	ヌマガエル	1	1	-	-	
備考	その他の外来生物は オオカナダモ(水草)、ハブタエモノアラガイ(貝)					



池の水を抜いて生物を救出する様子

池干し大作戦で たくさん生き物を確認！

宮ノ陣学びのビオトープでは、池内に生息できる生き物がくらす環境を整えるために、様々なテーマで学習や実践活動を行っています。その一つとして、ビオトープの池の水を抜いて、生態系の保全や水質を改善するための「池干し」を二〇二二年二月八年から行っており、四回目になる池干しを二〇二二年二月に行いました。新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、昨年に続き非公開で実施しました。

「池干し」とは、元々は農業用のため池を管理するための方法の一つで、農閑期(冬が多い)に、池の水を抜いて天日干しすることです。その行為を「掻い掘り(かいぼり)」と呼ぶこともあります。ため池は、農業用の水源確保のために造られ、田畑に水を供給するだけでなく、かつては、魚やエビなどを放流し、食料確保の機能も有するなど生活にとってかけがえのないものでした。ため池は管理されない状態が続くと、水質が悪化したり、外来種の繁殖場所になったり、好ましくない影響も出ます。よって、農業用ではない池においても、水を抜いて池底を天日干しすることにより水質の改善や生物の保全が図れます。

二月十八日、梅の花が咲くビオトープにて、池の生物がさらに快適に暮らせるようにするため、繁茂する水草や藻類の除去、外来生物の駆除などを行い、同時に生物調査を行いました。

みやのじんビオトープこども新聞

みやのじんビオトープは、水、土、緑などいろいろな環境に生きものがくらすようになるためにつくられ、人が生きものについて学ぶばしょです。この「みやのじんビオトープこども新聞」は生きものやきせつのこと、イベントや学習会のことなどをお伝えします。

みやのじんビオトープはたくさんのいきもののだいせつなすみかだよ！



カワニナがたくさんくらすせせらぎ



ミナメダカなど魚がくらすゾーン



たけとつちでできた環境にやさしい道



がくしゅうかい学習会のようなす(コロナ前)

いけ池ぼしたらこんな生きものがいたよ！

みやのじんビオトープの池の水をぬいて、くらしている生きものしゅるいや数を調べました。池の中には、魚だけではなく、虫の仲間もたくさんすむことができます。トンボのよう虫や、これまで数が減っていたけれど最近増えてきたコガタノゲンゴロウという水の中を泳いでくらすゲンゴロウの仲間もたくさんいました。魚の仲間では、ミナメダカはたくさんいましたが、ツチフキという名まえの魚はきよ年より少なくなりました。



コガタノゲンゴロウ

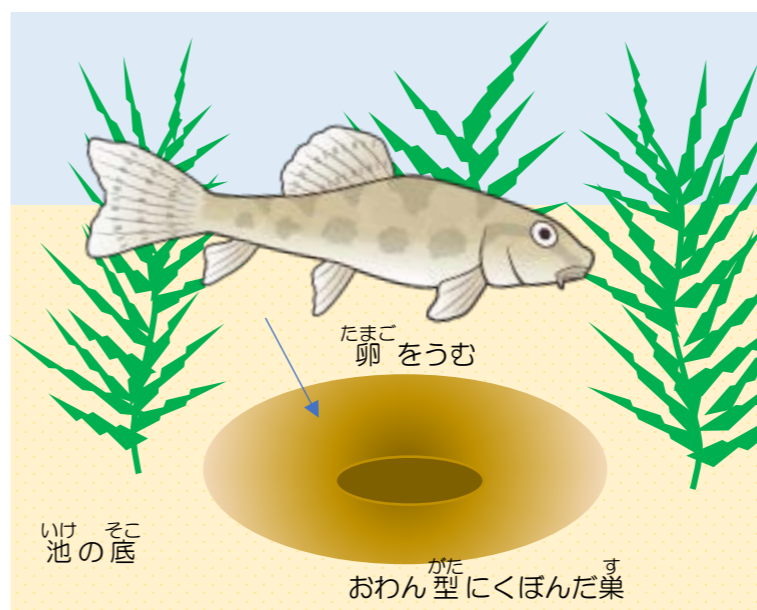
- からだながは3センチくらい
- 水の中でくらしていても、空をとぶこともできる
- 水の中にいる魚や昆虫などをつかまえて食べます

なんのために池ぼしするの？

池の水をぬいて生きものがくらしやすくするために起こします。そのためにどんな生きものがくらしているのかを調べたり、増えすぎた外来生物をとったりすることが大切です。

さかなの仲間ツチフキが少なくなったのなぜ？

ツチフキは、コイの仲間水の流れがゆるやかな浅い川や用水路にくらしています。虫や植物などいろいろなものを食べます。「ツチフキ」という名まえは池の底の砂や泥(ツチ)をくちからすい込んで、えらからふき出す(フキ)ことからついたと言われています。口は砂をすい込みやすいように下向きについています。水の底の土におわんのようにくぼんだ巣をつくり、そこに卵をうんで、オスがまもりまします。



ツチフキと巣のようす

今回の生きもの調査で、ツチフキの数はきよ年より少ないことがわかりました。左の絵のようにツチフキは卵をうむときは、砂や土でできた池の底に巣をつくりまします。植物がふえた時を想像してみてください。植物が多くなりすぎると、巣をつくるのがむずかしくなります。みやのじんビオトープでは、オオカナダモという名まえの植物がかなり増えていましたので、かりとって巣が作りやすいようにしました。